

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	グループホーム潮風		
所在地	三重県津市阿漕町津興2 1 4 番地2		
自己評価作成日	令和6年2月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigovsvoCd=2470501418-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

潮風の基本理念は「個々に応じたオンリーワン支援」<命と健康の源は食生活>をモットーに力を注いで支援しています。毎食毎の炊き立てご飯、手作りの家庭料理、お味噌も手作りで毎年2月に減塩味噌を仕込みます。職員・地域の方も参加しています。午前午後のおやつタイムにはその時々に応じた洋菓子・和菓子・懐かしい駄菓子・手作りのお菓子も好評です。90歳後半の方とは思えない程の食べっぷり、超元気な方ばかりでびっくりです。入居者の近況報告については、面会の機会を利用したり、スナップ写真を添えて文書にしたためて郵送したりと対応しています。海岸沿いの施設なので津波等による水害に危機感を持っています。有事の際の避難方法等については、家族にリアルタイムで提案し、協力を仰ぐ中で、情報の共有に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市の最も東寄りの海岸線近くに建つグループホーム潮風は、2004年3月に開設され今年で21年目を迎えた事業所である。周りは全て住宅地で道路を始め公園やスーパーマーケット等の生活インフラが整った環境で、事業所の規模としては1ユニット定員9人であるが、入居者の殆どが元々からの近所の住民であった人たちで、職員を含め地域とは顔なじみで入居前とさほど変わらない生活環境の中で過している。事業所理念の根幹は、まず「笑顔」そして「オンリーワンの介護」を掲げ、更に「地域との共生」を謳い今の環境によく整合するものである。職員はベテラン揃いで管理者のもと理念に基づく意欲的な支援を行っており、3年にわたるコロナ禍明けを待ちながら行動制限のない新しい生活を待つ日々である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オンリーワン支援を工夫する中で、笑顔あふれる暮らし方を大切にしている。入居者を中心に家族、職員が思いをひとつにした日常的な関わりの中で我が家にいるように過ごして頂いている。	支援の軸を「笑顔」「オンリーワン」「地域力の向上」に置いて理念とし、支援の質の向上を目指すこととしている。そして職員はこれを良く理解しており、言葉より利用者との触れ合いの中で体現し日々の支援に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域を交えた交流は潮風の基本方針としている。コロナウイルス等、社会情勢を鑑みの中で、年に一度の恒例行事となっている減塩味噌作り、干支の置物作りは実施する事が出来た。	自治会の一員として、また地域の福祉事業者としての立場をよく理解しており、認知症や介護保険、防災教室などの勉強会を開いたり、また逆に事業所のイベント時に地域の空き地を駐車場に貸して貰うなど、互いに協力し合いながら地域力の向上を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で思うような情報発信は出来ていないが、地域の中の認知症専門事業所としての役割が担えるようになってきている。専門的な情報等を発信する中で、地域の施設としての役割を果たしていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5類へと移行したコロナウイルス感染症ではあるものの感染すれば命に関わるリスクを抱えた高齢者施設としては慎重な対応を心掛けていました。開催の意義について考えさせられた一年でした。	コロナ禍もやや小康の気配のある今年度は8月10月を除く偶数月に4回の開催が出来た。出席は市役所担当職員や自治会関係者の他、複数の利用者家族も積極的に参加しており、様々な報告事項やこれに伴う活発な意見交換はその後のサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍で市役所等に直接出向く機会も減少しているものの、介護保険更新申請等の機会を利用して施設の近況を伝える中で、その都度の疑問に答えて頂いたり、アドバイスを頂いたり、貴重な時間となっている。	市役所には月1回程、介護認定の更新や運営推進会議の報告、連絡などで訪れているが、用件以外の様々な情報や意見の交換を行い運営やサービス向上に役立てている。目下のところ担当職員の異動が頻繁で継続的な事案の検討が難しいのが悩みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	潮風の指針及びその具体例を示すすべての職員の共通認識としている。個々の危険の回避、安全対策を講じる方法等については家族の要望を踏まえた上で随時検討している。	運営法人の基本的なマニュアルを事業所用にカスタマイズして指針としている。実際の運用はこれまでの事例を一連の綴りにしてその後の対応に活かすこととしており、事例の分析や考え方、対応が非常に系統的に合理的になされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の人権の擁護、虐待の防止等の観点から指針の整備、研修の実施が義務付けられている。潮風虐待防止マニュアルにより個々の認識を深め、申し送り時に必要に応じた話し合いの機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてのマニュアルを常備して制度の理解、認識に努めている。今年度は制度利用される方がおみえになり、入居施設の管理者としての対応をさせて頂いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至るまでのプロセスを伺う中で本人や家族の思いを十分に傾聴し話し合いを深めている。潮風と家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で思いが言い出しやすい雰囲気作りを心掛けている。面会時や文書発送時を利用して、本人の状態や近況を示す中で、本人の思いや希望を聞かせて頂き希望の実現に向けた支援を工夫している。	利用者の殆どが近隣の出身で家族等の面会も頻回に行われており、それだけ意見を聞く機会に恵まれている。なお、コロナ禍までは家族会による食事イベントが行われており、今年からこれを復活しようと計画中で家族意見の聴き取りに積極的な取り組みが窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で情報の共有、情報交換を密にしている。情報ノートを日常的に活用しその都度の意見や提案、困りごと等をリアルタイムで記入し、その都度の問題解決へと繋げている。	事業所と職員の情報共有のため連絡事項、決め事を文書や口頭で伝え、それに対する意見の聴き取りを逐次行うこととしており、情報ノートの活用など職員が運営等に関する意見を言える機会を積極的に設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員のライフスタイルを優先した勤務体制を可能な限り優先している。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心掛ける中で、頑張った職員が報われるような賃金体制へと繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手分野ある職員には、力量のある職員や管理者が克服に向けたサポートを心掛けている。その内容については必要に応じて全体の問題として捉え、職員間で話合う機会としたり、内部学習として資質向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会情勢を鑑みる中で、職員・入居者・その家族の命を守るべきコロナウイルス感染防止対策を最優先としているため、外部との交流の機会も減少している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントした情報を含めた中で、本人の願いや家族の思いを傾聴するように心掛けている。寄り添う中で信頼関係を築き、安心感を持って頂けるような関係作りへと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの苦悩や葛藤をゆったりと傾聴する中で、不安に思われている事を把握し、本音を吐き出して頂けるような対話を心掛ける中で、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけに捉われることなく、対話の中から真に必要な支援を見極めている。相談内容を傾聴させて頂く一方で、専門職としての見解を示し、必要な支援へと繋げていけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事等、職員と共に家事を協働する中で得意を發揮して頂いている。本人が出来る家事を見極めて実施していく事が、本人の意欲を引き出す機会、自信の回復へと繋がり、生活力の喚起へと繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者・家族・職員が一つの家庭と捉える中、本人にとっては潮風が我が家であり、家族にとっては潮風が実家でもある。潮風と家族が同じ方向を見て、思いをひとつにした支援を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族からの情報を聞かせて頂く中で今迄の本人を取り巻く環境を勘案、可能な限り入居前の関係が途切れないように、大切にしながらの支援に努めている。	利用者の現状として馴染みの人や場所を覚えていることが少なく、従ってこれに対する直接的な要望は少ない。しかし多くの利用者が近隣の出身であることから、時に計画せずに散歩に出て思わず喜ばれることもあり、今後もこのような機会を増やしていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の身体状況及び性格、趣味や職業など、今迄の生活環境を勘案する中で、相性の良い方を見極め、良好な環境作りへと繋げていけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居となった方、看取りをさせて頂いた方等の家族が立ち寄って下さったり、入居者を紹介して下さったり、一方では行事や運営推進会議に参加して下さる方もおみえになります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の思い、希望をしっかりと傾聴する中から本人にとっての最適な方法を引き出して行けるように努めている。	利用者の意向を常に把握することは難しいが、アセスメントシートやその後の生活シートでその人となりを理解し、日々の表情の変化や仕草動きに重ね合わせて思いの把握に努めることとしている。その基本は利用者との信頼関係にあると理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や病歴等、本人や家族からの情報を基に過ごし方等を把握、サービス利用等の状況については担当ケアマネよりの情報を基に把握、慣れ親しんだ暮らし方が日々の生活場面に反映出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるような側面的な支援を心掛けている。その時々思いや希望を取り入れた過ごし方が可能となるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族がどのように過ごしたいと思っていられるか、その都度の要望、又状態の変化に応じたリアルタイムな検討を重ね、本人らしい過ごし方の実現に向けた介護計画を立案している。	介護計画の基本期間は6カ月であるが、中身は生活実態に沿った微調整を繰り返し常に現状との整合を図っている。モニタリングは職員全員で行っているが、カンファレンスは特に会議形式にせず必要に応じて集まり意見を出し合うなど柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える一方で情報共有ノートを日常的に活用している。リスク管理に必要な情報、特記、個々の状態に応じたリアルタイムでの支援の方法等、個別な支援及び検討に活用し支援の充実へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのひとがその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。家族との交流の場がその都度の状況に応じた最善の方法を話し合う機会となり、柔軟な対応が可能な環境となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止対策を優先している状況にある中で、外部との交流の場面も減少している。社会情勢を鑑みながら地域を交えた行事を開催したりするなど、楽しく過ごせる生活場면을工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療体制を優先しつつ家族の意向に応じた対応を実施している。協力医療機関の在宅医療サポート体制ある中では定期往診に加え随時の相談・診療対応も可能となっており、安心出来る医療体制を構築している。	協力医療機関の在宅医療部を窓口、在籍する複数の医師がそれぞれの利用者を診ており実際はかかりつけ医の様である。訪問診療は月2回程度としているが、緊急時には24時間対応が約束されておりどんな時でも適切な医療を受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師及び協力医療機関の看護師と介護職員は、日常的に情報交換・情報共有を行っており、リアルタイムでの相談や適切なアドバイスが可能な状況となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師・看護師・ソーシャルワーカー・地域連携室、等との交流を日常的に行う中で、最善な対応が可能となるような関係作りの構築に努めている。人となりを含めた介護サマリを作成し、情報提供する中で療養生活を側面的に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については必要に応じたその時期に、主治医・家族との話し合いの場を設けている。一方でその方の終末期のあり方を職員間で共有し、最善な終末期ケアに向けての意思統一を図っている。	事業所としては利用者、家族の希望に沿った形で看取り介護に積極的に取り組むこととしており、これまで多くの実績がある。現在の利用者は全員が看取りを希望しているが、状況の変化の度に家族と話し合いながら、あくまでも利用者本位で判断していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず的確な行動が可能となるように、緊急時に必要な方法を具体的に示し、情報共有する中で認識を深めるようにしている。一方でその方法を施設内に掲示してとっさの場合に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	有事に備えた具体的な方法を、リアルタイムで情報発信し職員・家族・地域の中で情報共有している。協力医療機関でもある津生協病院を津波（洪水時）避難場所としており認知症の施設としてはとても心強い。	海岸線に近い環境であることから、津波等に備えた避難訓練を毎年実施している。またコロナ禍以前はやっていた消防署指導による通報訓練を今年は復活させたいと考えている。玄関脇に水等の備蓄品や利用者個々の非常持出し袋を備えており、常態としての防災意識が高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重については、職員間で十分意思統一を図り対応している。その人にふさわしい対応をその都度工夫する中で、オンリーワン支援に努めている。	利用者の人格やプライバシーの保護には先ず互いの信頼関係を築くことを第一としており、その上で利用者個々の問題や支援のあり方を検討して対処することとしている。その一つが呼び名で、一律に苗字ではなく利用者に最も響く呼び方を正にオンリーワンとして使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症ある中では、自身の思いを表出できる方も少ない状況の中では、個々の気持ちに寄り添い、その都度の思いを共有、共感し、真の思いが示して頂けるように、側面的な働き掛けをその都度工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごして頂けるように、職員ははさり気なく側面的な支援を心掛けています。その日の身体状態や精神面に配慮しつつ、本人にとっての心地良い過ごし方が可能となるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地、安楽な着脱を優先しつつも好みを優先するようにしている。潮風カットされる方、家族と行きつけの美容院へ行かれる方等、思い思いの方法で、ヘアスタイルも身だしなみのひとつとして楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しい食事は命の源！毎食炊き立て、作り立ての手作り家庭調理を提供している。行事に合わせた料理やおやつは季節を感じて頂く機会ともなっている。会話しながらの食事おやつタイムは大家族のようであり貴重な時間ともなっている。	食事は三食とも職員が交代で手作りしているが、献立等は特段の計画もなく一般の家庭のようにその時々に応じて柔軟に作っている。ただインスタント食品などは極力使わず、常に暖かく出来立てを出すこととしており、利用者の喜びが毎回の完食と云う形で表れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー・栄養配分・水分量・好み・主治医の意見等を勘案する中で個々の摂取量の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理形態に配慮しつつ、食事を楽しみとして頂けるような食生活を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の残差物の除去、朝夕の歯磨き、うがい等個々に応じた適切な方法で口腔内洗浄を実施している。夜間は歯ブラシ・コップ等は洗浄後ミルトン消毒、義歯は洗浄後ポリデント消毒、個々の状態に応じた方法で清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意ある方曖昧な方を問わず特別な事情ない限り全員トイレ利用を基本としている。自然な排泄が可能となるよう、気配や訴えを見逃さず、随時側面的な介助、対応を工夫している。一方で清潔保持に努めている。	利用者全員がトイレでの排泄が出来ている。毎日決まった時間にトイレに座ることを習慣付けていることが排泄のリズムを整えている様である。またこれらのリズムを記録として職員全員で共有し、システムとして運用出来ていることが良い結果として表れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用する中で、個々の排便リズムを確認し、必要な対応を実施している。食生活を工夫したり、楽しみながら実施できる体操や散歩等、運動の機会を工夫する中で整腸に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康維持・爽快感・気分転換の機会として入浴を楽しんで頂いている。すぐに忘れて何度も身体を洗ったり何度も浴槽に入ろうとされる中、見守り、声掛けを行いながら安全確認を行い、思い思いに入浴して頂いている。	入浴は基本的に1日おきで、外介助と中介助1人ずつの2人体制で行っている。概ね問題なく実施出来ているが、時として嫌がる場合もあり、入りたいという気持ちを引き出すよう会話などを工夫しながら支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中には、火災時の避難場所となっている潮風前アパート駐車場への全員散歩を日課とし季節を感じて頂く機会、体内時計調整への働き掛け等、心地良い疲労が夜間の安眠へと繋がるように工夫する中で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により薬効、薬害、リスク等について確認、認識を深めている。誤配、誤飲、を防止する為、3段階チェックを徹底している。個別の服用方法、必要な介助方法を共有する中で安全対策の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る家事を分担し、協働する中で自身の役割意識や連帯感を育てている。コーヒータイムや食事は大家族のようにテーブルを囲み、会話や笑い声が絶えない空間であり、安心できる居場所となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の命を守る行動を最優先とする中では、コロナウイルス感染防止対策を徹底している。必要に応じた行事の開催や、家族との外出等についてはその都度の社会情勢を鑑みながら、楽しみな機会を工夫し支援している。	コロナ禍も収まりつつあるものの、現状の外出支援は近所への散歩程度である。今後は出掛ける人数も行先も徐々に増やしていき、最終的には以前の様に全員で花見や食事など楽しい目的をもって出掛けられるようにと考えている。	コロナ禍明けも期待される中、今後の外出にも期待が持てる。人ごみを避け、利用者の希望を募り、全員で、そして場合によっては家族の協力も頼みながらしっかりと計画を作り、充実した外出支援がなされる様期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状によりお金に対する関心や執着もない中で生活されている。過ごす中で希望等あれば生活場面で対応し、食べたい物であれば食事やおやつに反映、一方で家族に伝えて購入して頂く場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今迄の生活の延長線上にグループホーム潮風での生活がある。以前仲の良かった友人からの手紙に返事を書かれたり、家族を通じて交流されている方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビング・廊下等の壁面には、季節毎の手作りの飾りつけを施し、温かな雰囲気作りを工夫している。行事毎のスナップ写真も掲示しており、自身の思い出の写真を見つけては満足気に眺めたり、家族等との楽しみな会話の糸口にもなっている。	リビングと各居室に繋がる廊下が特に広く造られており、吹き抜けの高い天窓からの自然光が全体をゆったりとした空間にしている。また季節の行事等に伴う掲示物や作品をその都度貼り替え、目でも楽しめる様工夫している。利用者は日中の殆どをリビングで過しており、居心地の良さが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは日常的に集う場所であり、余暇の交流を楽しむ空間となっている。ソファでは気の合う人とのおしゃべりしたり、職員とのふれあいの場ともなっており、我が家にいるように思い思いに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には慣れ親しんだこだわりのものを配置したり、思い出の写真を飾ったりと落ち着ける空間となるよう工夫している。家族との面会時にはゆったりとお茶を囲んで過ごして頂ける空間ともなっている。	6畳よりやや広めの居室には、備え付けとしてベッド、チェスト、椅子テーブルセットが配置されており、部屋での生活に十分な配慮がなされている。また全室日当たりが良く、周りの住宅の生活音や霧田気が伝わってきて入居前と変わらない落ち着いた空間を作り出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能及び精神状態を勘案する中で残存機能を見極め、個々の動きに合わせた自立に向けた動線の確保を基本とし、安全に安心して過ごしていただけるような環境作りを工夫している。		